

Project OSC



DATA

●主な連携先・メンバー

関西大学建築環境デザイン研究室／
武庫川女子大学／公立鳥取環境
大学泉ゼミ／大阪ターミナルビ
ル株式会社

●活動地域

大阪駅／大阪ステーションシティ
(以下、OSC)「時空の広場」

●活動資金

大阪ターミナルビル株式会社

活動の目的

1 | OSCの広場の魅力を再発見、「新しいまちの風景」の創出

連携にいたる経緯

2011年に開業した大阪ステーションシティ(以下、OSC)は、駅とまちが一つになるように計画されたが、開業当初は人のスケールから逸脱した空間であり、広場の在り方が模索されていた。「OSCが本当にまちになっているのか」をテーマに建築環境デザイン研究室とOSC関係者が協働で継続的にOSCについて考えていくことになった。

活動内容

本活動は継続して行われており、今年度で6年目となる。1年目はモニター調査として、まちあるきやフォトコンテストを行い、まちらしさの観点から調査・提案を行った。2年目からは時空の広場での「新しいまちの風景」の創出のための広場空間活用提案・実施活動を行っている。

実施提案は広場に仮設的な空間操作を行うことにより、広場の魅力を引き出し、訪れる人々が広場に愛着を持てる仕掛けを創り出している。あわせて、ワークショップなど利用者を巻き込んだ広場活用を行い、多世代が広場を介し交流する風景を創り出している。

このプロジェクトは、様々な立場や職種の方々と協働することで実現している。学生では不十分な技術的・制度的部分を補うために専門家と協働し、関西大学の学生だけではなく、武庫川女子大学や公立鳥取環境大学の学生との協働と、分野横断的に関わり合うことで、提案も視野の広がりを見せている。(倉本義己／関西大学大学院)



これまでの実施提案



広場での実施提案



ワークショップ風景

活動の成果

- 1 | 広場の制約を乗り越えていき、提案の実現の枠組みの拡大
- 2 | 管理会社との課題の抽出・提案
- 3 | 他大学と連携した提案・実施

今後の課題・目標

- 1 | 日常時の広場空間活用の在り方の模索
- 2 | 各主体との連携強化

●教員紹介



環境都市工学部 教授 江川 直樹(えがわ なおき)

1951年三重県生まれ。74年早稲田大学理工学部建築学科卒、76年同大学大学院修士課程修了。77年(株)現代計画研究所入社、82年同大阪事務所を開設し、集住環境を中心とするデザインに取り組む。2004年に関西大学に教授として着任。多くの受賞歴がある中、2018年度には文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞した。